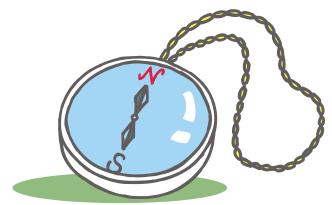


羅針盤



第 7 号

令和3年(2021年)5月24日(月)

◆ 和を以って貴しとなす

「和を以（も）って貴（とうと）しとなす」、この言葉は生徒の皆さんもよく知っている飛鳥時代に活躍した厩戸皇子（うまやどのおうじ）、つまり、聖徳太子（しょうとくたいし）の言葉です。604年に、聖徳太子がつくったとされている日本最古の成文法「十七条の憲法」の冒頭に書かれている言葉です。2019年の5月から元号が「令和」となりました。この元号の考案に関わったと言われている国文学者の中西進さんによると、「令和」の「和」は「和を以って貴しとなす」の「和」につながっているそうです。「昭和」という元号もそうでしたが、これまでにも元号に「和」という言葉がよく使われています。海外の人から見れば、日本人は「和」を大事にするとよく言われます。「和」という言葉は、日本の精神文化を象徴する言葉となっているのかもしれません。また、「和」は「やわらぎ」あるいは「やわらか」とも読みます。「和を以って貴しとなす」という言葉は、「やわらかなるを以って貴しとなす」という意味にも受け取れると思います。心をやわらかくして、やわらかい人間関係をつくりあげていくことを説いているとも考えられます。そして、「和を以って貴しとなす」に続くのが、「忤（さか）ふること無（な）きを宗（むね）とせよ」という言葉です。むやみ勝手に反抗することはよくありませんという意味だそうです。「十七条の憲法」は、近代における憲法とは少し性格も違っていて、官僚や豪族の心得（こころえ）や、道徳的な規範を表したものとなっています。「やわらかい心で協調することを最も大切にして、むやみ勝手に反抗することはしないようにしましょう。」といったように訳される冒頭部分は、単純に仲良くすることや同調することを意味しているのではなく、お互いの関係性をよく理解したうえで素直に議論を深め、そのうえでお互いに協調することを大切にしていくことを説いています。本校ですすめている集団育成の観点とも合致しているように思います。対等な関係性を理解しながら、自由闊達（かたつ）に議論を深めることができが如何に大切なことであるか、また逆に、遠慮して何も言わなかったり、威圧するような形で同調をすすめることができほど意味のないことをしっかりと理解してもらいたいものです。同調と協調は、全く意味が異なります。「和（やわらかい心）」のためには、何よりもお互いに協調する気持ちが大切です。意見交換をする中では、当然のことながら自分とは違う意見を持っている人がいます。反対意見にもしっかりと耳を傾け、理解していくことが集団生活を基盤とする学校では必要不可欠なものです。学級活動の中で、ただ単に学級の雰囲気を悪くしてしまうような意見や発言は慎むべきことだと思います。和を乱してしまうことでの無駄なエネルギーを使ってしまうことは、意味をもたないことです。「和を以って貴しとなす」という言葉の意味をしっかりと理解して、どの学年も、どの学級も、素晴らしい集団づくりをめざしてもらいたいものだと考えます。「やわらかい心もって、協調すること」がまずは最優先すべきことです。振り返ってみれば、今から1600年以上も前の書物である『日本書紀』に載せられていた言葉ではありますが、今なお色褪せることなく、私たちが学ぶべきことがたくさんある言葉だと思います。

